



「天災は忘れた頃にやってくる」



足元に気をつけて安全に避難しました。



これは、物理学者であり、夏目漱石門下の随筆家・俳人である寺田寅彦の言葉です。天災は、起きてから年月が経ってその惨禍を忘れた頃に再び起こるものであるから、日頃の用心を忘れず、常に備えておくことが大事だということです。

明後日は、30年前に阪神・淡路大震災が起きた日であり、「防災とボランティアの日」です。14日に行った避難訓練は、冬季・積雪時に発生した火災を想定し、避難の通報を聞き、放送の指示通り、安全に速やかに避難するというねらいで行いました。いつ起こるか分からない災害に備えて、子どもたちは、安全への意識をしっかりとって参加していました。

校長の話では、特に火災発生時の煙の特性と安全な避難について、下記のポイントを指導しました。

〈ポイント1〉 下に向かって逃げる

(煙の上昇速度は、人の約6倍)

〈ポイント2〉 低い姿勢で壁に手を当てながら壁づたいに逃げる

(煙とクリアな空気の層との境目「中性帯」よりも下を逃げる)

〈ポイント3〉 ハンカチやタオル(できれば濡らして)で口と鼻を押さえ煙を吸わない

(煙には不完全燃焼で一酸化炭素が含まれ、血液中のヘモグロビンと結合すると、体に酸素が行かず呼吸困難になる)



さらに、昨年1月、東京・羽田空港の滑走路上で日本航空と海上保安庁の航空機が衝突し、旅客機が炎上した事故で、奇跡的に全員無事に脱出できたことを紹介し、乗務員が訓練をしっかりと受けていたことや、炎に包まれていない安全なドアを見つけて避難させるなど、適切な「判断」をしたことが奇跡をもたらしたことを話しました。子どもたちには、普通の授業において、「ぼくはこう思う」、「わたしはこうする」といった自分の考えをしっかりと持つことが、「判断力」を身に付けるトレーニングになることを伝えました。

❄️雪育(ゆきいく)❄️ 親子で雪遊びしてみませんか!

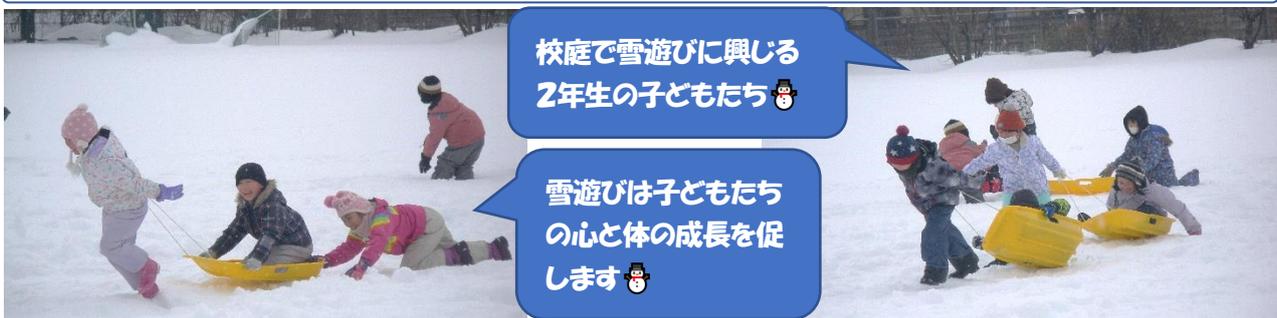
冷たくて、ふわふわで、手に乗せると溶けていく……。そんな不思議な雪が広がる白銀の世界は、子どもたちにとってワクワクの宝庫です。安全に気をつけて、親子で雪遊びをしてみませんか!

「雪育」とは??

スキー、スノーボードや雪遊びなどの体験が、子どもの心と体の成長を促すという考え方です。滑ったり止まったりと試行錯誤の連続が子どもを成長させるスキー・スノーボード滑走はもちろんただ雪に触れるだけでも非日常的な感覚体験ができることが期待されます。

「雪育」の効果・・・雪上の非日常体験が心と体を成長させます!

雪に触れる、踏む、固めるなどの行動は、触覚などの五感を刺激します。慣れない雪の上を歩くだけでも普段と違う筋肉を使い、バランス能力が養われるなど、身体面での成長が期待できます。他にも、自律性の発達や親子の絆を強くするなど、心の面での効果も期待できます。



校庭で雪遊びに興じる
2年生の子どもたち❄️

雪遊びは子どもたちの
心と体の成長を促
します❄️